

5. 本態性高血圧における運動及び薬物負荷に対する反応について

入江澄子, 片桐 誠, 鳩貝文彦
外岡正英, 渡辺 滋, 日野泰夫
杉山吉克, 村山 紘, 齊藤俊弘
(千大)

本態性高血圧症のうち, 若年動揺性高血圧症(特に, 高心送血量型, M型)と中年固定性高血圧症(特に, 末梢抵抗増大型, W型)に, 運動, isoproterenol, noradrenaline 負荷を行ない, それに対する反応性を比較した。運動, isoproterenol 負荷にて, 若年M型で, 心拍数, 脈圧, 心係数の増加が大であることから, β 受容体機能亢進が考えられる。noradrenaline 負荷試験の結果から, 高血圧症では, 圧受容体反射の低下がみられ, 若年M型で, その程度が小である。また β -blockade (Pindolol 30mg/日) 経口使用により, 若年M型で, 血行動態の改善, 降圧効果がみられた。

6. 抗癌剤の腹腔動脈内 one-shot 注入で効果の見た原発性肝癌の1症例

○山本博憲, 佐藤千代子, 岩垂 信
(千葉社会保険)

発熱・右季肋部痛・腹満・下腿浮腫を主訴とした手術不能な原発性肝癌の患者に, MMC 10mg・5FU 500mg の腹腔動脈内 one shot 注入を頻回行い, 自覚症状の速やかな消失, GOT・AFP・Al-P・CRP 等の正常化, 肝シンチグラム上陰影欠損の縮小, 腹腔鏡上主腫瘍の縮小・転移巣の退縮・血性腹水の消失が見られ, 12月23日現在の生存日数が327日と, 明らかに肝癌の進行がおさえられていると考えられるので報告する。

7. Endotoxin shock を起こした糖尿病患者の1例

○高橋道子, 下浦敬長, 平井 昭
(千葉市立)

61歳男性, 20年来の糖尿病を基礎疾患とし, Klebsiella Pneumoniae による Sepsis により入院, Cephamezine 点滴終了直後, Sndotoxin shock に陥った。大量の Steroid, Dopamine, 抗生物質, Insulin を使用し, 5日後によりやく Shock より離脱する事ができた。この症例の場合, Dopamine が昇圧, 利尿に非常に効果的であり, この症例に関しては, ほとんど救命的な意義があった。

8. Atypical CML の1例

○佐藤千代子, 岩垂 信 (千葉社会保険)
重田英夫 (千葉県ガンセンター)

38歳男。主訴下肢の浮腫, 既往歴家族歴なし。脾腫なし貧血なし。WBC 23600 血小板15万。末血像 St 6% Seg 25%, Eosino 4% Baso 41% Lym 22% Mono 2% Myeloblast (+), Promyelo (+), Myelo (+), Baso は末熟型より成熟型まで分布, 有核細胞数20万, 巨核数165 Neutro 55.5% Eosino 11.5% Baso 8.4% Erytho 19.9% NAPscore 142 血清 VB₁₂ 2700 Pg VB₁₂ 分画 TCI+TCIII が大部分を占め Ph¹ 100%陽性より chronic basophilic leukemia と診断した。

9. Sipple 症候群の1例

○富谷久雄, 檜垣 進, 蒔田国伸
中村 仁 (八日市場国保)
中田瑛浩, 長山忠雄
(千葉県立癌センター・泌尿器科)
嶋田文之, 武宮三三 (同・頭頸科)

59歳男性。昭和52年初めより時に動悸を認め漸次増加。12月より起立時ふらつき, 発汗, 悪心を伴い入院。入院時血圧は260/130~60/40と激しい動揺を示した。血, 尿中カテコラミンは高値を示したが甲状腺, 副甲状腺機能は異常なし。Phenoxybenzamine, Propranolol の使用で血圧は90~100/50~70と安定。千葉県立癌センターにて53年2, 3月手術を施行。摘出副腎腫瘍の組織像は褐色細胞腫を甲状腺組織像は髄様癌を示した。過度の血圧動揺を示した Sipple 症候群の1例を報告した。

10. 間違いやすい脂肪肝の症例について

茂又真祐 (塩谷病院内科)
○下浦敬長 (千葉市立)

塩谷病院において, 現在までに約100例の肝生検を施行し, 10例の脂肪肝を経験した。脂肪肝は, 慢性肝炎との鑑別が難しく, 診断確定には肝生検が必須であるが, 臨床的に肥満傾向, 高脂質血症, コリンエステラーゼ高値等が存在すれば, 脂肪肝を疑うべきであり, その場合は, カロリー制限, 運動療法等の治療を行なうべきである。